

令和8年度「小代っ子」

香美町立小代小学校
R8.7.17 No.7

◆ふるさとに学び 誇りと夢をもち
心あたたかく たくましい 小代っ子の育成◆

踏み出した成長への第一歩

～良い表情で終わることが出来た 1 学期終業式～

7月17日(金) 1学期の終業式を無事終わることができました。『みんなでつくる「お・じ・ろ」を合い言葉に新たな気持ちで頑張っていきましょう!』と呼びかけた4月から4カ月。どの学年の児童も毎日の授業や様々な行事、学級での自治活動などを通じ、ひと回り大きく成長しました。また、物の見方や考え方も各学年で今まで以上に大きく広げられたのではないかと感じます。よい面もこれからの課題も、また次の2学期につなげて!

お もいきり活動できる人 新しい学期のスタートにどの学年も新鮮な気持ちと「頑張るぞ」の意欲を感じました。1年生は小学生としての勉強に張り切って取り組む姿が見られ、2年生はお兄さん、お姉さんになる自覚が持っていました。3・4年生は唯一の複式学級でスタートを切りました。お手本を示す場面(4年)、行動を見習う場面(3年)、そして力を合わせる場面と複式学級の良さを生かして互いにより声掛けをしながら頑張ることができていました。5年生は、4校の仲間で協力し、自然学校を思いっきり楽しむ表情が印象的でした。そして6年生は、修学旅行への取り組みで平和について考えるとともに、小代小のリーダーとして後輩たちに寄り添い、たくさん動いてくれました。

じ ぶんから あいさつのできる人 素直でさわやかなあいさつは、小代っ子のよいところ。校外や地域でのあいさつは、まだまだ頑張れるかなと感じていましたが、登校時には交差点で立番をしている校長や駐在さんの姿が見えると遠くからでも大きな声であいさつをしてくれる人がとても増えました。「小代っ子のはつらつあいさつは地域の元気の源」これからもそう言っていたけように努力していきたいですね。

こころ やさしい人 困った人のために行動する優しさ、涙が出た友だちを励ます優しさ。そして、電車の中で高齢の方に席を譲ろうと動ける優しさ(修学旅行にて)にも出会いました。人への優しさは自分への優しさとしてきっとまた返ってきます。温かくうれしい場面がこれからもたくさん増やせるよう、こころ優しい人になれたらいいですね。

七夕集会

7月8日(水)児童会主催の七夕集会がありました。昨年より保護者の皆さんにもその活動を参観いただいています。

立派な笹竹に子どもたちが作った折り紙の装飾や願いを書いた短冊を縦割り班ごとに飾り付けました。その後は、七夕のカード合わせゲーム、最後に「たなばたさま」を全員で歌い、記念写真を撮りました。笹竹は、昇降口ホールの杉の柱に飾り付けました。

七夕は終わりましたが、子どもたちが持ち帰りました短冊をあらためてご覧いただき、保護者の皆様も願いを共有してあげてください。いろんな願いが形になったり、これから自分が頑張っていくためのエネルギーになってくれればうれしいです。当日のご参観、また笹竹のご提供ありがとうございました。





3・4年環境体験学習

6/29(月)とちのき村に環境体験学習に行きました。水生昆虫やイワナの稚魚、そしてサンショウウオも見つけることができました。子どもたちは豊かな自然の中でとてもいい表情で川、山の生き物や恵みに触れることができました。ふるさとおじろがまた好きになったことと思います。案内と指導をしてくださった田村さん、錦織さん本当にありがとうございました。



【お知らせ】香美町立学校における勤務時間外の電話対応について

香美町教育委員会では、教育活動の充実や業務改善など様々な観点から「働き方改革」を推進しています。この度、取り組みの一環として町立全小・中学校に留守応答電話機能を導入することとなりました。小学校への導入時期は2学期以降になる見込みです。開始日が確定次第、保護者の皆様には文書を配布しあらためてお伝えいたします。

8月 行事予定

日	曜	学校行事
9	日	コミュニケーション・ワークショップ
11	火	山の日
13	木	学校閉庁日
14	金	学校閉庁日
22	土	町人権講演会
23	日	P T A奉仕作業 8:00～
27	木	学校保健委員会 14:00～



つなGO! おじろ

小代小・中学校コミュニティ・スクール事業

『おじろの子どもたちの未来を考える会』

○時間 10:00～12:00

○場所 小代地域局 2階 大会議室

すでに全戸にチラシが配布されています。

※休日の行事が主ですが今、分かっているもののみ掲載しています

「思いの丈 ～日々のまなざし～」

教育の質を守る土台

「争えば足らず、分け合えば余る」
奪い合えば、どれだけあっても足りないと感じる。しかし、お互いに分け合えば、不思議と十分に足りるものだという言葉である。

穏やかに見える学校も実は大変忙しい。正確には、「子どもたちのために先生方が一生懸命に力を尽くしている状況」というべきであろう。

勉強が難しい子どもがいれば、どうすれば理解させることができるかを考え準備工夫する。一つ一つの行事にも必要な関わりを仕組み、子どもたちが主体的に活動できるよう支えながら時間をかけて共に築いていく。その他にも、数多くの研修や出張に出かけ、校内の打ち合わせや会議など、多くの業務に真摯に取り組んでくれている。

先生方はこのような状況だからこそ、お互いに声を掛け合い、助け合い、役割を分け合っている。そうすることで安心感や信頼を生み、「大丈夫」「一緒に頑張ろう」という気持ちを育てている。「余る」のは、物ではなく人の心なのかも知れない。

一方で「余力」を生み出すことについても考えなければならぬ。様々な業務を見直し、削減すること。デジタル技術を活用し手作業で行ってきた業務を簡略化していくこと等々。これらはまだ道半ばである。

余力がある人は分け合うことができる。分け合う人が増えれば学校には「余る」ものが生まれる。それは物ではなく、安心や信頼、そして子どもたちに向ける時間や笑顔など・・・その積み重ねこそが教育の質を守る土台になっていく。先生方の頑張りに感謝しながら、先生方に「余力」が生まれる学校づくりをここから丁寧に進めていきたい。